
ノッキングマスターの弟子

ザンレイ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ノックিংグマスターの弟子

【Nコード】

N6984X

【作者名】

ザンレイ

【あらすじ】

テンプレで転生することになったとある青年はトリコの世界に立つ。神様からグルメ細胞と高めの身体能力、仮面ライダーWの地球の本棚に似た能力を貰いトリコの世界を駆け巡る。バトルあり、恋愛あり、友情ありの壮大な物語。になったらいいなと思ってる物語である。オリ主転生者には早々とオリキャラ嫁が出来ます。

作者は頭の回転が激遅でリアルもあるのでかなりの不定期更新になり駄文で短くもなります。批判中傷はお辞め下さい。作者の濡れた和紙で出来たハートがブレイクします。

はじめに

始めまして。ザンレイです。漢字にしようとも思いましたがカタカナでザンレイです。今回は皆様の作品を読ませていただいて文才も無いのに書いて見たくなりまして、今回のこの作品、《ノッキングマスターの弟子》を執筆する流れになりました。

今回の作品が処女作でありますのでいろいろと駄文、誤字脱字が目立つ場合があります。そして作者のハートは濡れた和紙か、臍豆腐で出来ていると思われます。なのでこの作品を読むにあたって読者さまに必要な物があります。それはイラッとしても受け入れる広い心です。それで感想にて非難や批判中傷はお断りしますので、それでもおkなら先に進じやって下さい。そんなもん読めるかって方々はバックでお願いします。

はじめに（後書き）

あと、作者は書き溜めはしますがプロットなんかは書きません。執筆の時の気分で変わりますのでご注意ください。

メニュー1

「…というわけで、今回の捕獲依頼を受けて貰えないでしょうか？」

そう相棒の隣で腕を組んで立っていた僕に言ってきたスーツ姿の男性は五つ星ホテルで若くして料理長をしているらしくて名をコマツと言らしい。確かに年齢にしてはかなりの腕をしているみたいだ。仕事にもかなり誇りを持つてみたいだね。あ、ここまでで本人から聞いたのはまだ名前と依頼内容だけ。他の情報は僕的能力で調べてみた。

「ふむ。どうする、トリコ？」

そう言いながら、隣ていろいろと食べたりしながら葉巻木を咥えて釣りをしている相棒に尋ねる。

するとちょうど何か釣れたらしい。

「ザリガニフィッシュか…、ん？」

ちょうど釣り上げて空中に浮いているザリガニフィッシュに、向こう側から中々のサイズのイツツオオワシ飛んで来て掴んでそのまま持ち去ろうとする。が、それを相棒のトリコが許すはずもなく、

「チッ、横取りしようってか、しゃらくさい。フンッ!」

そう言いザリガニフィッシュをイツツオオワシが掴んでいるにもかかわらず、竿を振り下ろし二匹を地面に叩きつける。ホント、すごい力だよな。ほら、コマツ君もビックリしすぎてすごい顔にな

ってるし。

「ん？誰だそいつ？」

「…やけに静かにしてると思ったら聞いて無かったのか。依頼だよ」

「おお！それならそう言えよ！」

あ、そういえばまだ僕の名前を言っただけだったね。

「それで、今回は何を狩るんだ、カオル？」

カオル、それが僕の名前だ。

プロローグ（前書き）

なにか適当に書いてたらいがいに長くなってしまった。

あと、モンハンタグ付いてますが関係してくるのは少し後です。

ブローグ

- - - -

「ん、あれ？どこだコ」

ふと目を覚ますと周りには何もなく、ただ真つ白な空間が広がっていた。確か学校の帰り道で普通に歩いていたら後ろから衝撃と、何かが刺さる音がして振り向いたら知らない男が何か赤いものを持っているような。それから記憶の記憶はないけど。

「「気がついたか」」

「「…なんで最近見なくなった芸人さんがいらっしやるんでせうか？」」

声が聞こえたので後ろを見てみるとそこそ前に暇つぶしをする神様のネタで有名（？）になったあの二人がいた。

「「我々は君達人間の言うところの神だ。本来我々には形というものがないのだが、話しやすいように君の頭の中を見てみたら神といたらこの姿だったようなのでこの姿を借りている」」

えゝ、僕あの芸人そんなに好きだったかな？

「「他にも候補はあったのだが、我々がこの姿が気に入ったのだ」」

」

すごいよ芸人のお二人！本物の神様（的なもの）に認められたよ

！ってあれ？

「僕、声出しました？」

「我々が人間の思考を読むなど簡単…あの某有名な赤い配管工が無限1UPするぐらい、モン。ンで、G級装備着て最下位のドスファンゴを相手にするぐらい簡単だ」

1UP中に足滑らして死んじゃったことあるんだけど…。モ。ハ。ンも弓持ってドスファンゴ一匹とブルファンゴ四匹に囲まれてボコボコにされた記憶が…。というか、神様も結構ゲームのこと知ってるんだ。

「まあいいや。それで？なんで僕はこんなところにいるんでしょうか。いまいち記憶がはつきりしないんですけど」

「ここは現世から死後の世界に行く途中にある空間だ。お前は帰宅途中に男にバタフライナイフで背中から刺されて死んでしまったのだ。お前が見た赤いのはお前の血だ」

あゝ、刺されたのか。痛すぎて感覚無くなってたかな？刺した人に見覚えがないし、恨まれる覚えもないから通り魔とかかな。

「いや、ただの人違いだったようだ。恋人を取られたらしい。これが本来刺されるはずだった者の捨身だ」ピラッ

「…これのどこをどう見て僕と間違えるんだよ、似ても似つかない全くの別人じゃん！！」

「そこは刺した奴の感性だろ？恋は盲目とも言っし」

確かにそうだけどさ、後ろ姿似てたのかな。って、ん？

「声が重なってるない？」

「「飽きた」」

ちよつ、飽きたって！

「この姿ならそうした方がいいかと思つてな」

別にいいよ！僕のイメージ通りにしか動けないのかと思つてたよ！

「まあいいやもう。で？死んだ僕に何かようなの？」

「暇を持て余した」

「神々の」

「「遊び」」

もうそのネタはいいよ！飽きたんじゃないの？

「いや、これはネタじゃないんだ」

「なぬ？」

「我々つて寿命とかなないから本当に暇を持て余してるんだ。だから、死んじゃった人に何か適当な能力を与えて転生でもさせてみようって事になつてね」

「それで、ランダムに選んだら君に当たったわけだ」

え、マジで？よく二次小説で見るあれ？ワザと殺したわけじゃないよね？

「さすがに我々でもワザと人間を殺したりなどせん。かわいそうだろ。で、転生の条件なんだけど」

やつぱ、条件あるんだ。俺TUEEEEとかできないのか。

「いや出来るよ？ただ場所が決まっているだけ。というかさつき決めた」

そうなんだ。別にするつもりはないからよかったんだけど。場所は決めれないのは少し残念だけど。てかさつき決めたって？

「君、死ぬ前にコレを本屋で買っていただろ？」

そう言つて神様が取り出したのはトリコの単行本。そういえば、お試して読んでみて面白そうだから一巻からまとめ買いしたんだっ
た。ということは、場所はトリコの世界？

「そうだ。お前が起きる間暇だったから読んでたら面白つて二人してはまった」

「人間たちは本当に面白いことをいろいろ思いつくね」

やった！まだそこまで詳しくは読んでないけど、出てくる珍しい食材は食べてみたかったからね。

「最初はそのまま送るつもりだったんだけど、それじゃあすぐに
ぴちゅりそうだから力を与えてから送ることになったんだ。それで
君の希望を聞こうと思ってこの空間で待ってたんだ。だから何かほ
しいほしい力はある？特に制限とかもないよ」

んー、やっぱりとりあえずグルメさー「それはもうすでに付けてあ
る」…うお、マジでいつのまに。だったら…、うん、グルメ界を生
き抜けるぐらいの身体能力と、どんなところでもすぐ対応できる適応
力、あとは仮面ライダーWで出た地球の本棚みたいなやつでトリコ
の世界に対応してるの。食材の捕獲レベルとかも載ってるのがいい
な。

「そのぐらいでいいのか、遠慮しなくてほしいならまだまだ付けれるぞ？ネギまに出てくる魔法全部取得とか、漫画に出てくる剣術全部取得とか。見た目とかイケメンに変更とかも出来るが」

いやいや、最強の知識みたいなのと身体能力持つてる時点で十分ですよ、あの世界にないような力とかあまり使いたくないですし。それに、この見た目も気に入ってるし女性キャラ誰が出てくるか知らないしモテたいとも思いませんしね。むしろイケメン爆発しろ、ですし。

「ふむ（別に顔は悪くないと思うのだがな）、まあお前がそれでいいならいいんだが。その条件で送ってやる。あとは適当にこちらでオマケしておく。あとお前途中から口に出すの忘れてただろう」

「あ、そういえば。思考読まれるから口に出し忘れてた」

そう言っていたら視界がぼやけてきた。

「ああ、言い忘れてたけど原作よりそこそ前に送るから、適当に力の練習とかしときなよ。原作とか気にせずによっちゃっていいし」

え？まあいいか。知らない食材とか食べたり、なにか技術でも習得するか。

そう考えながら僕の意識はだんだん遠くなっていった。

プロローグ（後書き）

批判中傷はダメですが、誤字脱字の指摘はしてもらえるとうれしいです。

キャラ説明（前書き）

オリ主の説明でげす。

キャラ説明

名前／カオル

性別／雄

頭髮／黒毛で、肩より少し上ぐらいまで伸ばしていて特に整えたりせずに自然のままにしている。前髪も切るときの気分で変わる。今は眉の上辺りまでにしてある。

身長／180？（トリコとよく一緒にいるため普段は小さく見られがち）

服装／黒地に黄色のラインが入ったジャージ

能力（東方風に）／「全ての物事を検索する程度の能力」「グルメ界を生き抜く程度の能力」

能力説明／仮面ライダーWの「地球の本棚」のトリコ版で上位種。検索の際、オリジナルほど時間がかからず、ある程度なら戦闘中でも検索可能。

もう一つは、力や瞬発力、危機管理能力などあらゆる身体能力が格段に上がっている。いろんな地形・気候にも少ししたらすぐに対応できる。

両能力ともばれたらどうなるか分からないので少し簡単に説明している。（高い身体能力と捕獲レベルの付いている物の能力などの把握）

攻撃方法／ノッキング・肉弾戦

備考／濃い緑色の眼鏡装着。

ノッキングマスター次郎の弟子。なのであらゆるノッキングを教え込まれている。

人物説明／元はただの人違いで殺されちゃった高校生。そしたら神様が暇つぶしで転生させてくれる事になった。トリコの世界に行くことになった理由は、カオルが死ぬ前に持っていた単行本を神様

が気に入ったから。

キャラ説明（後書き）

今後随時更新する可能性アリであります。

メニュー 1 その2（前書き）

意気込んでこの作品を始めてみたのに、構想はあっても文章にできず遅くなった上に200字ギリギリの激短です。

あと、作者は原作は読みましたが単行本を持っていないので細かい会話などはうる覚えでしゅ。

メニュー1 その2

- - -

「それで、依頼内容は把握したかいトリコ」

初めにトリコが聞いていなかったせいでもう一度依頼内容を聞き直した僕たち。

「ガララワニの捕獲か、難しいな」

「や、やっぱり有名なトリコさん達のコンビでも難しいですか…」

なんか勘違いをしているみたいだねコマツ君は。

「いや、狩るだけだったらその額でいいが、捕獲だったらその倍額用意しろ。それで捕ってきてやる」

僕たちだったら普通のガララワニぐらいだったら余裕だし。もっとも、そのガララワニが普通ならね。

メニュー1 その2（後書き）

次は初戦闘：に入れたらいいと思います。先に主人公の初食事シーンが入ります。

次話の文章は多少は出来ているので今回よりは早く投稿出来ると思われます。

…前書きの文の語尾、自分で言ったと思うとキモイな。

メニュー2 食前話（前書き）

なんとか投稿出来たでござる。
この後どうしようかのう。

メニュー2 食前話

いきなりガララワ二捕りに行く前の船上で食事中です。ン？飛んだ？こんくらい普通普通。

「ストライプサーモンうまっ！脂のりすぎ！」

「もうちょっと丁寧に食べるよ。美味しいのは認めるが…」

なかなかのサイズのストライプサーモンを二人一匹ずつ食べる。トリコは背びれや骨ごと丸かじり。僕はちゃんと捌いて刺身にして、たまに寿司塩につけて食べている。骨とかよくそのまま食べるな、あとで揚げて骨せんべいとかにして食べればいいのに。

「で、コマツ。どこの高級ホテルで働いてるんだ？今度二人で食いに行くから教えるよ」

とりあえずトリコ、お前は食べながら喋るな。食べかすが飛ぶから。

「あれ、僕料理人だっけ言いましたっけ？」

「トリコの鼻は犬並みにいいんだよ」

「ああ。それでお前の手にこびり付いて落ちないいろいろな高級食材たちの匂いでわかったんだ」

そう言いながらも百合おにぎりを食べ続けるトリコ。前から思ってたんだが米にフルーツウメボシってあうのか？トリコのことだからちゃんと合う米使ってるんだろうな。

そんなことを考えていたら説明も終わっていたみたいだ。トリコも僕も自分たちの食いものは全部食べ終わったし。といっても僕は

刺身だけだね。

「おーい、島が見えてきたぞ！」

おっと、良いタイミングでついたね。

今喋ったのはこの船の船長のトムだ。船の操作がかなり上手く、そこそこ有名だ。

そう言ってる間にも船は狭い岩礁地帯を進んでいく。このあたりもちゃんと原作通りに進んでいくな。…それにしても、ホントに良く転がるなコマツ君。

僕とトリコは普通に立っているが、コマツ君は右に左にと転がっている。まあ普通の料理人じゃしょうがないよね。よく原作で上陸する時酔ってなかったな。

「ん？」

「カオル、お前も気になってるか…」

「あ、ああ。なにか大物がいるよね、フライデーモンキーもこんな所まで出てきてたし」

トリコと僕は、一瞬島から何かを感じ喋っていたらコマツ君が今回のガララワニについて説明してきた。トリコはコマツ君の説明で納得したけど僕は違う。昔修業で師匠と旅をしていた時に出会った“アイツ”と似た雰囲気を感じた。こんな所にもいるのか…。

そんなことを考えていたけど特に問題もなく原作通り上陸し、トリコ曰くネコを威嚇しておっぱったり、コマツ君の銃が意味なくなっただけのリアクションを見たりした。なんかリアクションでかくない、コマツ君？

このまま原作通り進んでくれるとうれしいんだけどな。今回は師匠もいなくて、トリコはいるけどコマツ君もいるから不安にもなる。不安ながらも三人で森に入っていく僕たち。

水中から何かの影がこちらを覗いていることに気付かずに…。

メニュー2 食前話（後書き）

自分も仕事柄手から臭いがなかなかとれません。大量に処理しないといけないので落とす暇もないです。具体的には、ニンジンのオレンジ色が付いてニンジンと玉ねぎとニンニクとバニラの香りが同時にします。最後のは仕事外で付いたものですがね。

次回、ワニと別に何かが出る！でも何出そうかな、やっぱりお魚さんかな。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6984x/>

ノッキングマスターの弟子

2011年11月15日08時08分発行